【小・中・高等学校道徳講座】

平成３０年度
「特別の教科　道徳」の授業づくり講座　実施要項

１　目　的
道徳科の授業の充実を図るための実践的な研修を通して、指導力の向上を図る。

２　期　日　　平成３０年９月３日（月）～９月４日（火）

３　会　場　　福島県教育センター　（福島市瀬上町字五月田16）

４　日程・内容

日	時　　間	内　　容
１日目	9:40～ 9:50	受　付　　※受付場所　第１棟　４階１４１研修室
	9:50～10:00	開　会　　１４１研修室
	10:00～10:55	協　議　「道徳科指導上の成果と課題」
	11:05～12:00	講義・演習　「考えを深める道徳科の授業の実際」
	13:00～16:45	協議・演習　「考えを深める道徳科の授業構想Ⅰ」 １４１・１４２・１４３・１４４・１４５・１４６研修室 ・授業構想についての班別協議
	16:45～17:00	諸連絡　　１４１研修室
２日目	8:30～10:50	協　議　「考えを深める道徳科の授業構想Ⅱ」 １４１・１４２・１４３・１４４・１４５・１４６研修室 ・検討した授業構想の発表
	11:00～12:00	演　習　「子どものよさを価値付ける道徳科の評価の実際」１４１研修室
	13:00～15:00	講義・演習　「考えを深める道徳科の授業の在り方」 国立教育政策研究所　教科調査官　澤田　浩一
	15:00～15:15	閉　会

５　準備物等
(1) 書籍及び資料等
○　「考えを深める道徳科の授業構想」で使用する、文部科学省「私たちの道徳」掲載の以下の資料から、担当学年・校種に該当する資料を選び、分析を行い、研修当日、手持ち資料として１部持参。＜別紙様式＞　（事前提出不要）
※研修期間中、この資料分析を基にグループで授業構想を検討し、グループの代表者が、検討した授業構想について発表を行う。
・小学校１・２年　「たびに出て」（礼儀）
・小学校３・４年　「同じ仲間だから」（友情、信頼）
・小学校５・６年　「愛の日記」（公正、公平、社会正義）
・中学校　　「１冊のノート」（家族愛、家庭生活の充実）
※高等学校の資料は、中学校と同じものとする。
※文部科学省「私たちの道徳」が学校にない場合、文部科学省のＷｅｂサイトよりダウンロードすること。

(2) 事前課題
○　「道徳科指導上の成果と課題」での協議資料
ア　内容・様式等
・内容
※道徳科の指導全般における成果と課題についてまとめる。
・様式
※下記のように、冒頭に学校名と氏名及び担当学年を記載し、成果と課題についてまとめる。（Ａ４判縦置き１枚）

＜様式＞

学校名	○○立○○学校	氏名		担当学年	年

「道徳科指導上の成果と課題」における協議資料

1　成果が上がっていること

2　課題と感じられること

イ　提出方法
・８月２０日（月）必着
・Emailで送付（下記「８　問い合わせ先　(2) 研修内容について」へ）
※件名を「専門道徳－課題」として、本文に所属校と氏名を明記し、協議資料を添付する。

(3) その他
○　共済組合員証、上履き、部屋着、洗面用具等
○　食費　１，６２０円（１泊２日）
（食事単価：朝食３２０円　昼食３９０円　夕食５２０円）

6　留意事項
(1) やむを得ず欠席・遅刻・早退をするときは、所属長に連絡し、指示を受ける。
(2) 車で来所する場合は、来所経路・駐車位置について「駐車場案内図」を事前に確認すること。なお、駐車場に限りがあるため、乗り合わせや公共交通機関の利用に御協力ください。
(3) 宿泊研修は、原則として全員宿泊とする。なお、詳細は「宿泊棟生活のしおり」を参照すること。
※「駐車場案内図」と「宿泊棟生活のしおり」は、教育センターＷｅｂサイトで確認すること。

7　宿泊研修者の夕食の取扱いについて
宿泊研修の食事は全員全食とするが、やむを得ず夕食を必要としない場合は、次のとおりとする。
(1) ８月２８日（火）までに、別紙様式５－１（「平成３０年度研修講座案内」Ｐ．１９参照）により「宿泊研修における夕食の変更届」を作成し、Emailで提出する（期限厳守）。
(2) 前記(1)の期限後の変更はできない。
(3) 食事代は、前記(1)に係る不必要夕食分を除いて該当講座の２日目の朝に納入する。

8　問い合わせ先
(1) 欠席等について
福島県教育センター　総合企画チーム
TEL　024-553-3193　FAX　024-554-1588
Email　center-kikaku-gr@fcs.ed.jp
(2) 研修内容について
福島県教育センター　教員研修チーム　道徳科担当
TEL　024-572-4183　FAX　024-554-1588
Email　kyouin-kenshu30-gr@fcs.ed.jp

＜別紙様式＞　（記入例）

資料分析（例）出典：文部科学省　「私たちの道徳」　小学校１・２年「はしの上のおおかみ」より

資料名：はしの上のおおかみ	内容項目　Ｂ（６）親切、思いやり
ねらい：幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする態度を育てる。	
各場面	主人公の心の動き
○　おおかみが、橋を渡るうさぎ、きつね、たぬきなど、自分よりも小さい動物たちに意地悪をする。	○　みんなが怖がっておもしろい。 ○　ここでは俺が一番偉いんだ。 ○　みんながどいてくれてうれしい。 ○　自分の思い通りになって楽しい。
○　おおかみが、橋の向こうからやって来る熊に出会って、道を譲ろうとする。	○　熊は自分より体も大きく強そうなので、道を譲ったほうがいい。 ○　いつものようにやると、怖い目に遭うかもしれない。
○　橋の向こうから熊が来たときに、抱きかかえられて後ろに下ろしてもらった後、おおかみは、橋の上に立って熊の後ろ姿をいつまでも見ている。	○　熊は自分と違ってやさしいと思った。 ○　やさしくされるとうれしい。 ○　意地悪だった自分を省みて、熊を見習いたいと思う。 ○　もう意地悪はやめよう。
○　うさぎに会ったおおかみが、熊のまねをして、うさぎを通してやる。	○　うさぎにやさしくしたら、自分もうれしい気持ちになった。 ○　よいことをすると気持ちがいい。